

NEWSLETTER

“RSC” とアメリカの平均株価の急落は短期的にシフト操作の Number Operation によるもの

No030220

質問や確認を兼ねて現況報告のメッセージを思いの外多くの方から届きました。それらのメッセージの文面から判断して皆さんは総じて冷静だと感じました。限られた方からのメッセージから他の方も同じだとは言えませんが、皆さんの多くの方を代表しているように思えました。一つには、… 私がこれまで幾度も繰り返し言い続けてきたことなのですが…、皆さんがナンバーオペレーションを“相場”とは違う次元のものとして受け入れていると感じられことです。皆さんは“RSC”をゲームの一部として許容していると思います。“許容する”とは英語の“allow”です。それを受け入れる隙間を持っているという意味です。

このRSCの原理が働いている

今回のRSCはとびきり(=並外れていること)激しかったと言えます。先週の“RSC”について数値の分析とオペレーション/ハンド操作について解説する前に、私と私のチームが経験してきたことを簡単に紹介します。過去を振り返って“とびきり激しかった”と言えるRSCは2008年の“リーマンショック”に反応したRSC、2011年の“欧州危機”に反応したRSC、2012年の“ギリシャショック”と“米国財務省証券格付け引き下げ”に反応したRSC(2012年は前半と後半の2度にわたる激しいRSCに見舞われました。)、2018年2月“米国平均株価の突然の急落”に反応したRSC、2018年12月の“利上げに伴う米国経済ベアマーケット懸念”に反応したRSC、そして、今回の“新型ウィルス懸念からの米国平均株価急落”に反応したRSC。

こうしてみると激しいRSCはいずれも国際政治・経済・社会情勢に反応して発生していることがわかります。しかし、私は皆さんに「そのようなニュースや材料に耳を傾けるな！」と伝えました。「米国の平均株価を見る必要はない。」とも述べました。

数値の価格にはありません

確かに激しいRSCはそのようなイベントに反応してあるいはそれを先取りして発生しています。しかし、そのようなことを知ってもナンバーオペレーションの実践には全く役に立たないのです。ナンバーオペレーションのゲーム(事業)自体はそのようなイベントから独立し数学的原理が機能しているのです。そのようなイベントの圧力を受けて崩れた(歪んだ)数値構造の内部ではそれを回復させようという力が絶えず働いています。まるで生物の細胞のように。

2018年12月までの過去のRSCはいずれもその後大きな収益を生みました。今回のRSCもそうなるでしょう。現在の状況(数値条件)は、控えめに言っても、非常に魅力的に見えます。

オペレーション/ハンド操作については後述しますが、以下のことを述べておきます：
△ABCに集中しないようにと現在の状況に至る前に述べたのは理由があったのでした。
昨年大きな成果を出した方々に対しては特に△ABCから離れるように警告したかったのです。

数値は全て利用する

ナンバーオペレーションの数値構造(マトリックス=トライアングル)/価値構造(バリューチェーン)は長期的に誰にでも収益を運んでくるよううまくできています。しかし、このゲームを邪魔する罠や落とし穴が潜んでいます。「△ABCに集中するな！」は「このゲームを甘く見るな！」という警告でもあったのです。

相手とポーカーゲームをやっているとイメージすると現在の構図が読めると思います。相手はこちらの冷静さを失わせようと仕組んでいます。私がかつてRSCを“ブラフ”と呼んで皆さんに紹介したのはそのようなポーカーゲームの構図をイメージしていたからです。

“RSC”は仕組んでいる
1. どのように仕組まれている?

このRSCは外部環境の急変の反応に起される